



平成23年度 ブラジル通信  
12月10日(土)~12月16日(金)  
No. 15  
発行者: 宮本 朋子

## NRE (州教育事務所) 管轄の学校訪問

パラナ州には、2136校の州立学校があります。そのため、州全体を32地区に分けて教育事務所(NRE)を置き、それぞれの地区教育事務所が教育行政を行っています。つまり、NREは

州教育局と学校のパイプ役としての役割があり、学校現場に近い存在です。

そこで、クリチバ北部地区と南部地区教育事務所、クリチバ地区教育事務所

の3地域が管轄している学校を訪問しました。



### <北部地区教育事務所管轄の学校>

クリチバ市の北に位置する4都市の学校を訪問しました。北部地区は貧しい人が多く住む地域で、家庭や地域環境が整っておらず、学校の意義が正しく理解されていないといえます。そのため、まず「学校は勉強するところ」ということを教え、それをもとに規律を身につけさせ、その後家庭や地域教育、勉強へとステップアップしていくのですが、そこにたどり着く前に荒れてしまう学校があるようです。また、ほとんどの学校は午前・午後・夜の部の3部制をとっていますが、学校数が不足しているため、一部の地域では4部制(7時~11時、11時~15時、15時~19時、19時~23時)をとっている学校もあります。放課もなく連続で授業を行っているようで、ゆとりのない学校生活は、私生活だけでなく、子どもたちの心も貧しくしてしまうように感じました。

しかしながら、現在荒れた学校を立て直そうと、APMF(保護者、教師、学校職員の会)という、日本でいうPTA活動や、校長、教務主任、コミュニティ、生徒会(内容によっては参加しなくてもよい)が行うクラス審議会が盛んになってきたといえます。特に、APMFは、学校施設面での改善活動を中心に行っており、学校再建に向けて環境整備に力を入れていました。また、学校問題については、その都度クラス審議会を開き、現状をもとに今後どうしたらいいのかを話し合うなど、コミュニティが学校運営に積極的に参加していました。こういった動きが、家庭教育へも浸透し、心の貧しさの改善へとつながってほしいと思いました。



◀南部地区教育事務所管轄の学校▶

クリチバ市から南の地区は、貧しいながらも農業や産業が盛んな地域で、ヨーロッパの影響を大きく受けています。

最初に、農業や畜産関係の技術者を育てる1日制の学校を訪問しました。高校1年～3年、農業の専門コースがあり、168人の生徒が農業に関する理論と実践を学習しています。また、80人収容できる寄宿舎も併設しており、集団生活における規律指導も徹底されていました。入学試験が毎年行われ、5～8年生の成績と個人面談で合否が決まります。入学後は、1年生の時に卒業論文のテーマを決め、3年間かけて研究していきます。中にはブラジル科学賞を受賞した生徒もあり、専門知識をもつ先生によって学習サポートが確立されていました。高校卒業後の進路は、40%の生徒が大学（農学部や畜産学部）へ進学、40%が家業につき、残りの20%は企業に就職しているそうです。50ヘクタールの面積をいかした教育がされており、3年間で農業の全プロジェクトを勉強できるすばらしい学校でした。



現在新しい宿舎を建設中

シャワー、トイレ、勉強部屋もあります



時代の流れとともに変化する服装やダンスを紹介

次に訪問したのは、ポーランド系のキリスト教の学校でした。学校目標は、「愛情と献身、個性や知性をいかす、アイデアをうみ出す」で、道徳性や人間性を育成するため、子どもたちの創造を生かす教育を行っていました。特に、11月下旬から12月上旬にかけて開かれる文化発表会では、自主的に考えた企画を率先的に取り入れていました。ここでのがんばりが、成績のポイントに加算されるということもあり、毎年多くの生徒が発表しているそうです。今回の訪問でも、夢の分析や生物学で覚える内容の替え歌、自作ビデオを使った差別問題や麻薬の危険性の紹介など、発表内容が多様で、見ているだけで子どもたちのもつ関心事や疑問等がよく伝わってきました。また、基礎学力を高めるプロジェクトも取り入れており、地域のニーズに合わせた独自のカリキュラムを組んで、常に子どもたちに考えさせる教育をすすめています。その結果、ブラジル教育の発展レベル指標（IDBE）として行われている学習習熟度テストでは、成績がいつも上位に位置しているそうです。何でも話せる家族的雰囲気大切にしながらも、先生に対する尊敬の念をもった学校で、日本の学校に近い教育をしていると思いました。



写真を活用して生い立ちの記を作成

◀クリチバ地区教育事務所管轄の学校▶

クリチバ市には、164校の州立学校があり、そのうち1日制の学校は、たった1校しかありません。また、ミスエデュカッソンをしている学校は84校ありますが、取り組み方がマリンガ市と異なり、IDBEの学習習熟度テストにおいて、到達点以下の学校が取り組んでいるそうです。そのため、活動内容は、州教育局が提案したコース内容から選ぶという形をとっています。それ以外の学校では、学校が独自に活動内容を

THE 虎舞のロードに合わせた演舞



親子で空手の発表



先生は赤、生徒は青で統一された学校

ハートが熱いです

を決められるセグンド・テンポというプロジェクトが新たに始まったそうです。ブラジルでは、今学校の在り方が見直されています。学校、保護者、コミュニティが協力し合いながら学校づくりを進めていこうという姿勢が多くみられました。



直系2世の算数先生が折り紙や刺繍を教えています

# 州立学校の校長選挙

今年は、3年ごとに行われる州立学校の校長先生の選挙の年ということで、12月はどこの学校も忙しそうでした。

校長選挙においては、選挙管理委員会が設置され、30日間選挙運動をします。学校内で対立候補があがると、学校の職員が同じ色の服を着たり、車のバックガラスに選挙ポスターを貼ったりと、誰が誰を支持しているのかが、目に見えてわかります。選挙権は、先生、学校職員、コミュニティ、17歳以上の生徒、16歳以下の生徒の親にあり、票の重さも生徒よりそれ以外の人の方が重くなっています。もちろん17歳以上の生徒が投票したくない場合は、代わりに親が投票できます。また、投票率が35%以上ないと45日後に再選挙が行われ、それでも決まらない場合は、NREから代替りの人が送られてくるそうです。この選挙では、やる気のある人が校長先生になるチャンスがありますが、選挙によって学校が分裂したり、経験不足な人が選ばれたりするので、難しいシステムだと思いました。サンパウロ州では、校長試験を行っているそうで、学校全体が同じ目標に向かって歩いていくためには、実績と人望のある人が校長先生に選任されるべきだと思いました。



選挙に対するお礼が書かれています



学校の前でヒップホップダンスの子供たち



選挙活動中の先生たち



## 精進料理研究会 食事会参加



クリチバ市にある浄土宗日伯寺で開かれている精進料理研究会の食事会に参加しました。この精進料理研究会とは、お寺の住職を中心に、クリチバ市に住む日系人や日本語学校の先生などが参加し、月に1回自分たちで考えた料理を作って研究する会です。今回は、1年間の活動を振り返る忘年会のような食事会でしたが、中には初対面の人もいるということで、自己紹介から始まりました。85歳の高齢者や日本語の話せない人、出稼ぎ経験者など、様々な背景をもった人と話をすることができ、とても楽しいひと時でした。帰国する前にぜひ料理の会にも参加できたらいいなと思いました。



食事しながらの楽しい話



精進料理研究会のメンバー

これから美味しい料理を作っていきます！



## ぶらっとブラジルク・イ・ス♪

ブラジルで通りを歩いていると、サンダルの人をよく見かけます。特に、Havaianas のサンダルが人気で、とても履きやすいです。一方、スポーツをする時はスニーカーを履くのですが、ブラジルでは、スニーカーのことをあるスポーツの名前で呼びます。それは、何のスポーツでしょう？

- ①サッカー      ②バレー      ③テニス

ブラジル人にとって憧れのリゾート地「ハワイ」にちなんで名づけられました。庶民の足だけでなく、セレブ御用達の不思議なサンダルです。



ブラジルのお土産としても有名

答え：③（ブラジルでは、スニーカーのことを「テニス」と呼ぶので、ウォーキングやスポーツをする時に、「テニスを履く」とよく言います。）